

YAMAHA NEWS NO.90

ヤマハニュース '70 **12** DEC.



特集 第17回東京モーターショー

いよいよ充実された

ヤマハ交通安全教室



「新しい二輪車時代」の開発をめざすヤマハが、交通安全の確立と、正しいモータースポーツの発展を期して開設したヤマハ交通安全教室は、全国組織のもとに権威ある指導員制

度、豊富な教材・用品をもって、各教室とも活発な運動を展開し、その成果は社会的にも高く評価されております。今後ともヤマハ交通安全教室の活動によるしくご協力ください。

ヤマハ運転免許教室

無免許運転の根絶と、交通ルールの周知徹底を期して好評。新しいお客さまをつくります。

原付免許教室

二輪免許教室

ヤマハトレール教室

性能を正しく把握した基本走行の習練と、危険防止のハイテクニックの実地指導で人気。

トレール教室

トレールラン教室

ジムカーナ教室

オートキャンピング教室

ヤマハスポーツ教室

二輪車を好む若者を中心に、各種のモータースポーツが大流行。正しい指導普及でお店の発展を。

ツーリング教室

モトクロス教室

ロードレース教室

メカニック教室

ラリー教室

ヤマハヤマハの 二輪車館でした!



毎年、秋の恒例の行事として全国的に話題を提供している東京モーターショーが、今年も東京・晴海埠頭の貿易センターを会場にして十月三十日にオープン。十四日間の会期に百四十五万余の観客を動員しました。

二輪車館での人気コーナーはもちろんヤマハ。喰い入るような目つきでスポーツ・シリーズやトレール・シリーズを眺める若者、陽気なヤマハミニの展示に思わず顔をほころばせる家族連れ、そして季節の商品ヤマハスノーモビルやヤマハメイクト、ビジネス・シリーズにも大きな関心が寄せられ、机上にうず高く用意されたチラシ類がまたたく間になくなるといふ人気で、今年もヤマハの名を大いにPRしたものでした。



17th Tokyo Motor Show



スポーツのヤマハ

「日本の市販レーサー初の快挙、二五〇ccクラス・メーカーチャンピオン獲得、70世界選手権ロードレース」——世界最強と折り紙つきの市販レーサーTD2が、スペイン、東ドイツ、イタリアなどの工場レーサーを相手に、みごと世界GPを制覇、モータースポーツの史上にまた新しい記録をヤマハがつけ加えました。これでヤマハのタイトル獲得は通算八回を数えます。

この実績のもとにつくられたスポーツ・シリーズは、ビギナー用のFS50からベテラン用のXS650まで七車種。新車二〇〇ccや、マイナーチェンジでますます充実したFS50、HS90、ショー直前にモデルチェンジされたDX250、マイナーチェンジのRX350、XS650などがずらり勢ぞろい。若いお客さまを主体に圧倒的な人気を博しました。



1 自由に乘れる展示コーナーでは若いファンが次々とまがって、購入車種を物色

2 ウーム、まさにピッタリとくるこのライディング・ポジション。これにきめたって

3 ゴキゲン、シビレルウ…技術の結晶GPレーサーはやはりみんなの憧れのマト

4 オートバイ仲間が集まれば話題はヤマハ。新登場のXS650を囲んで話ははずむ



1

トレールのヤマハ
 オートバイのスポーツツレジャーを、ますます巾広く楽しいものとしたのがヤマハトレール。新しい二輪車時代はヤマハのトレールシリーズにはじまったといっただけでよいでしょう。事実、世界の若者たちはヤマハトレールの出現によって、今までに経験したことのない新しいスポーツツレジャーを発見したのです。それだけに、ヤマハトレールは各社のネラウところとなり、ここに華やかにトレール時代を迎えたのです。

そして、ことしのショーでもっとも充実したトレールシリーズを見せて人気をあつめたのはヤマハです。90HT1からAT125、CT175、DT250、RT360の豊富な車種揃えに加えGYT（純正ヤマハチューニング）パーツによるそれぞれのモトクロッサーの展示など、ヤマハはひとときわ目につく存在でした。



- 1 GYTパーツで、トレールからモトクロッサーに早変わり。さあ、ドンといこう
- 2 ウワー、かっこイイ。躍動するヤマハトレールに思わず手が出る。さあ、買った
- 3 男を荒野にかりたてるものズバリ、それはヤマハトレール。さあ、自然を走ろう
- 4 フムフム、これが高性能をひきだすGYTパーツか。さあ、家へ帰ったら改造だ
- 5 右に、左に、メカニカルな美しさを見せて跳ねるトレール。さあ、主役はキミだ

17th Tokyo Motor Show



見る さわる 乗る 話す 撮る



全国二十九カ所にオープンしたヤマハトレールランド

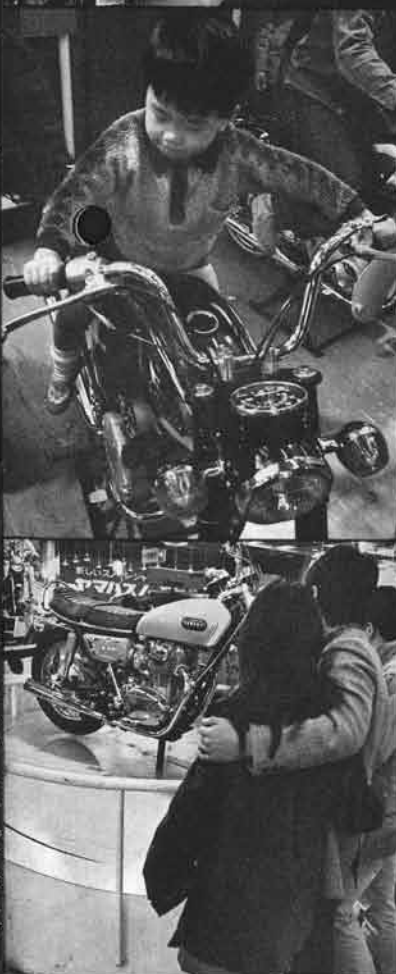
ママ腰掛がわり、ぼくオモチャ？ やーネ、本物だゾ



どういうわけか、ヤマハは楽しい

完全武装で、コワイモノ無し

こっ伏せて、こっやって……と



残念でした、ちよつと足がとどかない

ベアで走るフ、ヤマハスポーツ

あこがれのヤマハスポーツに直面して、考える人、さわる人

ボクのユメ、銀世界を走る夢

山火事に、トレール消防隊。フム、これはイケル

17th Tokyo Motor Show



イボイボ・タイヤだア!



スイッチ一つでこの熱心さ



女流モトクロス・ライダー誕生! ほんとうにそうなら楽しいナ



お国の息子へ、ハイ バチリ



ホスターも人気ものでした!



カタログをポケットに、超高速で走っているお客さま



異のウラもじっくり二輪ください



思わず手が出るヤマハスポーツ



見る目が違う、真剣だ



さあ、そこでキャンプして、ってな気分

ミニは楽しく 好評のビジネス

「新しい二輪車時代を築くヤマハ」から新登場のモデルはレジャーバイクのヤマハミニ。世界の名作「白雪姫」から七人の小人たちを招いての楽しい展示で人気を呼びました。

今年の東京モーターショーは、初めて外車（四輪）が参加して、国際的な規模へと発展して開催されたもので、海を渡って各国から訪れるお客さまが多かったのですが、ヤマハミニの展示は青い目のお客さまにも大受けに受けたものでした。こうして、ヤマハミニのコーナーは二輪車館の展示で最大の人気をあつめ、絶好のPRの役を果たしました。

いっぽう、忘れてならないのはビジネスシリーズのお客さま。最近の交通量の混雑ぶりを反映してか、二輪車のもつ機動性が見直され、例年になく関心が寄せられていたのが印象的でした。ヤマハメイトやA7、H3など働くヤマハにも大きな支持があるのです。



1 ハイデラックスになってますます豪華。だけど免許が……ハイ、免許教室の用意もあります

2 ウーム、なかなかよく出来ている、若返ってひとつヤマハで飛ばそうか……お元気ですネ

3 お父さんイカス。まあナ。うちにも一台入れるとするか……ご用命をお待ちしております

4 ヤヤッ、白雪姫と王子サマ……じゃなかった若い、すばらしいカップル。ヤマハをどうぞ

5 ホー、ホイッ、ホー……楽しい展示に陽気な音楽。ヤマハミニのコーナーは人気ばつぐん

17th Tokyo Motor Show

5





三機種が登場のスノーモビル

わが国初の小型雪上車としてヤマハスノーモビルが登場してすでに三シーズン。その手軽な運転操作と雪上での敏捷な動きがかわれて、いまでは雪国にはなくてはならない生活必需品としての地位を高めています。

その活躍の範囲は広く、たんなる雪上での交通用としてのほか、雪上作業などの業務用として、また最近ではレジャー用としても大きな需要が見込まれています。こうした背景をもとに今回のショーではけん引力のS-350B、

運動性のS-300、そしてスポーツのSL-292を出品、この分野におけるバイオニアとしての進出ぶりが話題を呼びました。また会場の一隅に設けた技術コーナーも好評で、とくに若いお客さまの信頼を集めたものでした。

17th Tokyo Motor Show



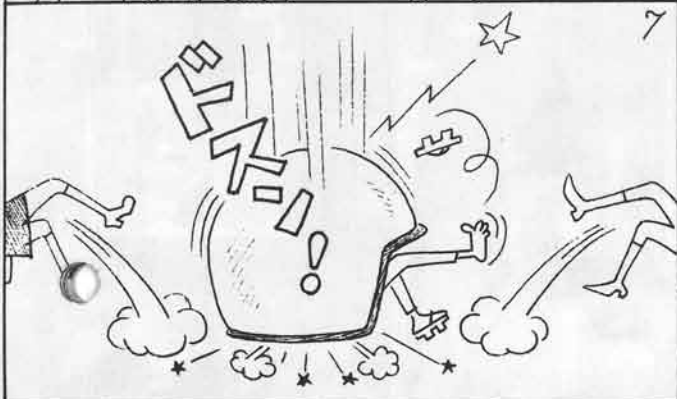
1 単気筒エンジンをのせた経済型がS-300。運動性もよく、はやくも上々の人気をあつめてショーでも大好評

2 雪のシーズンを迎えて、若い人の中ではスノーモビルを新しいスポーツレジャーにもちこもうと意気さかん

3 一面の銀世界を、スキーヤーのごとく軽快に走るのはヤマハスノーモビル。映画の前には感嘆の声がしきり

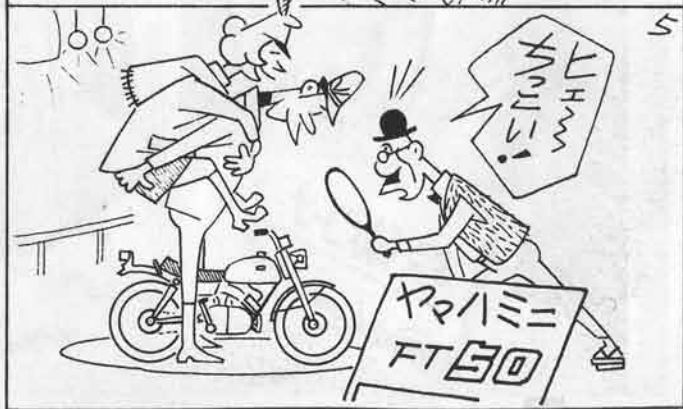
4 手前にあるのが新登場のS L-292でスポーツ仕様でつくられたのが特徴。今年はスノーモビルのレースもある

5 最近のお客さまは、メカに通じている人が多く、若いお客さまほど熱心笑顔のうちにも真剣な質疑応答風景



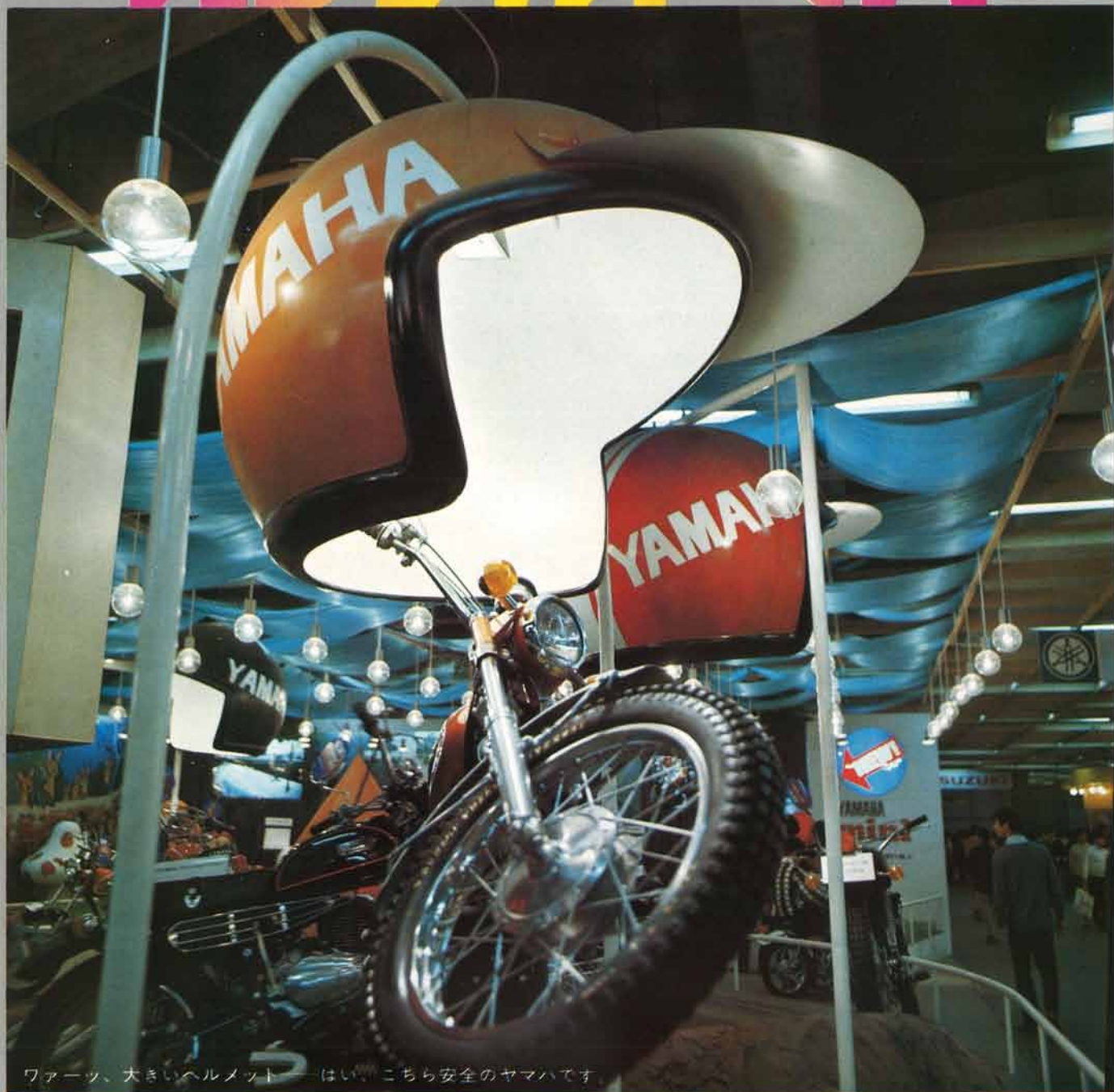
着のまゝのバイクショップ

勝利



若さと楽しさで一番人気

カラフルヤマハ



ウェアツ、大きいヘルメット——はい、こちら安全のヤマハです

色とりどりの大型ヘルメットも印象的に、二輪車館でもっとも人気を呼んだのがヤマハコーナー。鮮やかな色彩で、イメージを一新させたトレール、スポーツ・シリーズをはじめ、おなじみ白雪姫からの七人の小人たちで

飾りつけられたFT50など、コーナー全体が若さと楽しさにつつまれ、連日、押すな押すなの盛況でつめかけたお客さまの足を止め、ことしも二輪車館ずいーの人気を得たカラフル・ヤマハでした。



テントを囲んでトレール走る——男を荒野に駆りたてるヤマハトレールです。



若者のハートをがっちり掴む——種類も豊富なヤマハのモトクロッサー群です。



セリアーニ型
フォークの新XS650



カラフルな
125スポーツ



抜群の性能に洗練されたスタイル——それはヤマハスポーツだけのものです。



フレッシュノ
ヤマハスポーツF550



タコメーター付
ヤマハスポーツHS90



市販レーサーで世界GPのチャンピオン——
またまたヤマハが作った輝かしい記録です。



楽しさいっぱい、七人の小人たちとミニ——
いかがですか、仲間を呼ぶヤマハミニです。



カラフル・ヤマハで楽しく走ろう——50ccから650cc
までお好みのカラー、お好みのタイプが選べます。



「はほーう、これは可愛らしい……」このショーの総裁・高松宮殿下、同妃もことのほか興味深げにヤマハコーナーに足をどめられた。



ヤマハ
白バイ
XS650



雪国で大活躍のヤマハスノーモビル群——タイプも三つ。実
用に、レジャーに、用途に合わせて選べるのはヤマハだけ。



新車
CS200E

寒さがなんだ
雪に走れば
また楽し



雪原を、雪を蹴って前進する。冷たい大気が頬に気持ちよい。

雪溪を背に、さあ何処を走ろう。若いトレール仲間には次々と新しい道をひろげる。

冬に向って、これからは寒さもいっそう厳しくなり、北国では積雪のためオートバイの活動範囲もせぼめられてくるでしょうが、寒さや雪に負けず、大いに外にとびだしたいものです。

北海道では、昨シーズンに雪中モトクロス大会がひらかれましたし、スノーモビルのレースも、今年はかなり活発に行なわれるようです。もう、冬だからといって閉じこもってはかりはいられません。お店の活気あるところをお客さまに印象づけるためにも、冬のトレールラン、雪のトレールランを計画したらいかげしょう。いままでと変わった面白い走り方が体験できるかも知れません。

コースはあまり長くとらず、時間をたっぶりとって計画してください。スコップやロープの携行を忘れないこと。そのほか地図、懐中電灯、雨衣、着替えなども用意し、無暴は避けて楽しいトレールランを計画してみてください。きつとお客さまに喜ばれ、お店の恒例の行事となるかもしれません。



ヤマハがひらく若者の道



行く手に高さ2メートルの壁。雪でなければ駆けのぼるところだが……。



ゲレンデに乗り入れて足ならしならぬウデ試し。そら、行けっ……。



凍った雪面では、車輪はもぐらないけれどもスリップがひどい。発進に注意。



本格的な雪道のツアー。両ヒザ締めて、肩の力をぬいて……。トレール教室が懐しい。



モトクロスのトロフィーを手に。正さん、寿子さんご夫妻と、長男の正昭くん、次男の浩二くん。

こんにちはヤマハです

新しい二輪スポーツきざりめよう

茨城県西茨城郡岩瀬町・中野輪業



加波山を背景に、モータースポーツをひろめるヤマハ家族とお客さま。留吉さんは50F5S、正さんはXS650、寿子さんはメイト50の愛用者

「スポーツはヤマハ」の名声のかけには、モーターサイクル・スポーツの普及に地道に努力してこられたヤマハフレンド店のみなさまの功績が光っています。ここに紹介する茨城県岩瀬町の中野輪業さんも、今日のスポーツ時代を築いた先駆者の一員です。モトクロス、ツーリング、トレール・ラン、トレール・ハンティングと、お客さまと手をたずさえ、新しい二輪スポーツの開拓に挑戦してきました。

だれでも参加できる スポーツを目指す

自由民権事件で名高い加波山をバックに、ヤマハスポーツ店の装いも新たな中野輪業さんのお店が、人目を引いたはずまいを見せています。

店内にはモトクロスのトロフィーがいっぱい。経営者の中野正さん（30才）や、スポーツリーダーの寺田允彦さんを中心とした「岩瀬スポーツライダース」の輝やかなしい戦歴を物語っています。

モトクロスが、今日の隆盛をみる以前から関東のあらゆるモトクロス場で、めざましい活躍をみせた岩瀬スポーツライダースは、お店のスポーツムードを盛り上げるのに大いに役立ちましたが「だれでも参加できるモータースポーツを流行させたい」という正さんたちの考えから、ツーリングを主体とした「岩瀬オートライダース」に生まれ変わりました。

春と秋、二五〇cc以上のスポーツ車をつらねて行なう一泊ツーリングも、すでに三年。関東、東北地方をくまなく走破した勘定になります。

スポーツリーダーの寺田さん（中央ヤツケ姿）や高校生ながらメカニックに腕のさえを見せるマーケツトリーダーの寿々木徹さん（左端）も、立寄った白バイマンと仲よく談笑



交通安全の実地指導を白バイマンから受けるお客さんたち。



お店の中は明るく美しい。熱心なフレンド店さんが遠方から見学に訪れることもある。



トレール・ハンティング
大正十二年に中野輪業を創設した中野留吉さん（71才）は正さんのお父さんですが、何十年来つづけてきた猪狩りも、いまではヤマハトレールで出掛けます。キジや山鳥が得

ツリーングの模様を八ミリ映画に撮り、ミートインクの席上で想い出を楽しんだり、走り方の勉強に役立たせたりするのも特色です。



トレール・ハンティングを楽しむ中野さん父子。

意の正さんともども、トレール・ハンティングの先駆者というわけです。加波山周辺にヤマハトレールでハンティングに出掛けるお客さまがふえています。

加波山は、中野輪業のお客さまにとって、絶好のトレール・ラン・コースです。休日ともなれば、加波山から足尾山を通って筑波山へ抜ける約四十キロの林道トレール・ラン・コースに挑戦する若いお客さまが絶えません。正さんや寺田さんも、ひと月に二回ぐらいは、お客さまの運転指導を兼ねて、トレール・ランに参加します。

トレールランドを利用したトレール教室で安全運転の基礎をしつかりと身につけ、二輪車の新しい楽しみをトレール・ランの中に発見するお客さまが、ますますふえることでしょう。

新しいスポーツ店のあり方を研究

今年の八月、スポーツユーザーをふやす拠点にふさわしい立派な店舗が完成しました。県下の有名ヤマハスポーツ店はもちろん、東京へも足をはこんで、新しいスポーツ店のあり方を研究したすえ、正さんみずから設計した新店舗です。

商品もスポーツ、トレール、ビジネス、メイトと、シリーズ別に展示した見やすい構成です。明るく美しい店舗にはフリーのお客さまの訪れがふえました。

長い信用が築いた地盤には、安定したヤマハメイトの需要があります。その上にスポーツ、トレールの新しいお客さまが、どんどん生まれています。

正さんたちは、ヤマハ経営ゼミナールにも積極的に参加して、永続的な経営基盤を確保するため、研鑽をつづけています。

日本グランプリでヤマハが大活躍

日本のモーターサイクルスポーツのメインイベントである「日本グランプリロードレース大会」は、全日本選手権シリーズの第五戦として十月二十五日、鈴鹿サーキットを会場に熱気のもったレースを展開した。

この日はあいにく天候が不順で、陽がさしたかと思えば雨雲が低くたれこめ、霧雨にコースが濡れば、豪雨でコースが洗われるという悪コンディションで、ノービス、ジュニ

ア/セニア混合の、九〇cc、一二五cc、二五〇cc、二五二cc以上の五レースが行なわれたが、ヤマハ車は各クラスで大活躍、注目のジュニア/セニア混合二五〇cc/二五二cc以上のレースでは、本命のひとりスポーツライダーの三室恵義がトップグループにあって転倒にまき込まれ、クラッチレバーの折損でやむなくベースを落とせば、ジュニアライセンスの、しかもDS6の二五〇に乗ったプレイメ

イトレーシングの糟野雅治選手がトップに進出、首尾よく勝利をものにするという番狂わせもあって会場をわかせた。

三室恵義選手はそのご、RX三五〇をノンクラッチ操作で再スタートし、二位を確保したのは、さすがセニアのベテランという声が高かったが、それにも増してヤマハ車の活躍は、悪天候をおしてつめかけた多数のファンにつよく印象づけられた。





デンマークの スピードウェイで優勝

スピードウェイレースのデンマーク選手権で、二五〇cc級にヤマハのマシンが優勝しました。
写真がそのマシンですが、エンジンはYDS6二五〇ccエンジンを改造したものであり、フレームもまた手製です。
レースは一〇〇メートルのサンドトラックで行われましたが、ヤマハのライダーH・THOMADENは、スズキ、カワサキ、ブルタコのライバルを約半周も引き離して快勝しました。



スペシャル 4気筒250ccエンジン

写真はオーストラリアのベテラン・チューナーであるC・ダニエルズ氏の作ったヤマハ250cc 4気筒エンジンです。

クランクケースは同氏の手製、ヘッド、バルブ、ピストン、ロッドなどは、125ccレースキットのものが使用されています。

また5段変速のギヤボックス、クラッチは大型のヤマハモデルのものがとり入れられています。

ヤマハで コスタリカ最優秀選手に

南米コスタリカのナショナル選手権ロードレースで、ヤマハオートバイの現地代理店、LUTZ HNOS & CIA・LTDAに働くカルロス・マルテル・パチェコさんが、最高の総合得点をあげ、最優秀選手となりました。

まず50ccクラスには、ヤマハYF1改造車で参加して優勝。大会中、呼びもののオープンクラスでは、カワサキ500ccなど重量車に向うにまわして、わずか125ccのYAS1チューニングアップ車で力走。堂々、優勝をとげ、この日のヒーローとなりました。



ヤマハ RT1 南阿ラリーに優勝

九月二十日から一日半、そして約五五三マイルの距離にわたって行われた南アフリカの70 スタールーフ・アフリカ・ラリーに、ヤマハトレール三六〇cc RT1に乗って参加したケープタウンのR・リンレー氏が見事にモーターサイクル部門の優勝を果しました。

このラリーは、その名が示すようにアフリカの屋根ともいべき三千メートル以上、七つの高山を走破するという苛酷きわまりない



もので、三年前に特殊な四輪車のための競技としてスタートしたのです。今年のコースはスタートがLESOTHA・ゴールがMASERUでした。

オートバイが、これに加わるようになったのは二年前からで、そのルールによって、最後の四輪車がスタートしてから10分後にオートバイがスタートしますが、スタート後の条件はすべて同じで、とにかく先へ目的地に付いた方が勝ちというわけです。

せまい山路で先行の四輪車を追い抜かなければならぬという不利にもかかわらず、リンレー氏のヤマハトレールは、あらゆる苛酷な条件を克服、四輪車と互角以上の競技を展開したのです。

結局総合四位になりましたが、もちろんモーターサイクル部門では首位。二位もヤマハマシンのC・メイヤー氏でした。

世界でも有数の苛酷きわまりないラリーで、ヤマハトレールは予想以上の高性能とスタミナを發揮、全レース関係者の舌を巻かせました。



ブラジルでシェアを高める ヤマハ船外機

ヤマハのすぐれたオートバイ技術に裏付けされる船外機シリーズは、いま確実に海外市場のシェアを高めています。日本からの移住者が社会の各分野で活躍している中南米諸国、とくにブラジルでは、市場に最近デビューしたヤマハ船外機がすぐれた性能と、操作の簡便性で大変な人気を呼んでいます。

もともとヤマハ船外機は、現地のインポーターである太陽堂が試験的に輸入したのですが、たちまち老舗のジョンソン、マーキユリーといった銘柄をしり目に飛ぶような売れ行きで、市場をリードしています。

写真は、現地の日本語雑誌「実業のブラジル」に紹介されたヤマハ船外機P1二五〇です。

実業のブラジル

SELIÇÕES ECONÔMICAS



9
1970



将来はGPライダーに

——ベルギーの二新鋭選手——

ベルギーのライダーは、世界のモトクロス部門で大活躍していますが、近い将来必ず世界の檜舞台にデビューすることが確実なヤマハの二新鋭ライダーを紹介します。一人はベルギーの国内選手権シリーズ軽排気量級で実力ナンバーワンといわれるP・ヘック選手、またもう一人はそれに次ぐ有望ライダーF・ヴァアホーヘン選手です。いずれも、ヤマハのベルギー代理店であるTHELEMAUS社専属ですが、まだ二十代になったばかり。両選手の今年のシリーズにおける活躍ぶりは、ファンに大きな話題を提供しました。



昭和45年11月1日発行昭和45年4月21日発行東京特別刊行物第256号刊行物昭和45年11月1日第1種郵便物認可 毎月1日発行 第1000号

MOTO
CYCLEモーター
サイクリスト

魅力のオートバイ

ヤマハ六五〇XS1

★世界の男の市場共通の傾向として、重排気量バイクの人氣が益々高まってきています。

昨年市場にデビューしたヤマハの初の4ストロークモデル六五〇ccXS1は、前に米国専門誌がテストにとりあげ、大型バイクブームに更に拍車をかける魅力充分の車であることを実証しましたが、南のオーストラリアでも、最大型ヤマハはすでに市場の花形になりました。

以下は現地のジャーナリズムが行った六五〇XS1のオーストラリア初のテスト記です〔モーターサイクルニュース〕テストのすべり出しは、一速二十マイル/時であったが、このギヤでの最高速は四十五マイル/時、最大回転数は七五〇〇程度が適当と思われる。ohcパラレルツイン六五三ccの強力エンジンのトルク値は、メーカー仕様通り、回転数六千でスムーズにそのピークに達した。

さてこの最大型ヤマハの出力/重量は、ライダーなしの状態で、一トンあたり三〇〇馬力であったが、テストライダー乗車時でトンあたり二〇六馬力ということになったが、この数値も現行のレベルをかなり上回っていることは確かである。

土踏まずの新車がテストに使用されたためにチューニング不足の感で、SS以マイルは十五・一秒、〇〇五十マイル/時は五・七秒という結果が出たが、この数字は適度に使いこなされたマシンの場合はかなり短縮されることは間違いない。

しかも、このテスト数値は、クライスラー

の新型四気筒「ヘミ」ベークセダンのそれを約一秒も上廻っていたのである。

六五〇ccヤマハのエンジンのきわだった特色は、すべてのスピードレンジにわたって非常に静かであるということだった。

更に、五段変速のギヤボックスの作動の滑らかさも一驚に値した。

ライダーはギヤをシフトするのに、フットレストから足を離す必要がなく、レバーの作動も極めてスムーズであった。

急速発進の際にも前輪の浮き上がりが全く見られなかったが、これは低速ギヤ比が高くてあることのメリットである。

軽排気量バイクの場合なら、急速発進でフロントホイールが浮き上るのも愉快であるとして片付けられようが、重量感あふれる六五〇ccヤマハを軽排気量バイクと同列に論ずることはできない。

低速ギヤの高ギヤ比は、このバイクのはつきりした特色の一つに数えるべきである。

六五〇ccヤマハの強力前輪ブレーキによってすぐれた安全性が保証されている。

時速六十マイルからの作動によるストップまでのタイムは約四・二秒であった。

フレームは、がっちりとしているが、軽量のダブルスチールクロードルチューブ、前輪テレスコピック、後輪スイングアームのサスペンションは、強力効果的なコイルスプリング式ダンパー組み込みである。

ハイウエーでも、市中でもライディングは非常に快適で、特にハンドリングのよさは予想をはるかに越えていた。

日本製の軽排気量バイクに乗って、時折感じられるライディングポジションのきゅうくつきは、さすがにこのXS1にはなく、六フィート級のライダーを目標に、ハンドルバーの形、およびその高さ、燃料タンクのサイズ、位置、フットレストの位置など理想的なレイアウト方式がとられていた。

ただ急速なアクセルレシオンおよびハイスピード走行の際の、ヤマハのダイナミックな動きにあわせて、ニーグリップをしっかりとさせることに、日頃からなれておくようにすることが必要だとの印象をうけた。

スタンダードの装置として、折りたたみ式のキックスターター、パッドがよく似たデュアルシート、フリクション型のステヤリングダンパー、足、手動ブレーキストップランプ、トラフィックブリンカーなどがある。

大型で特に明るいヘッドランプによって、夜間走向の安全性が保証される。

パラレルツインという、重排気量バイクについての伝統的な出力装置レイアウト方式がとられた最大型ヤマハは、その外観、性能ともにこの排気量クラスでの第一級品で、バイクファンなら誰もが、ひきつけられ、乗ってみたいなる魅力の車である。

一、〇九九ドルという販売価格もまた、オーストラリア市場で同一排気量クラスの他銘柄製品と競合する上で、非常に有利な要素の一つになるだろう。

世界的に上昇気運にある重排気量バイク需要を、今後大巾に促進する車の一つがヤマハ六五〇XS1であると言ってさしつかえない。(九月四日号)

REVS ROAD TEST OF YAMAHA 650 TWIN



専門誌に見る

ヤマハ各車の

テストダイジェスト

★東京モーターショーを直前に「新車予想と国産車オールガイド」を特集した専門誌からヤマハ各車のテストダイジェストをばっすいしてみました。これからのセールズ活動に役立つポイントがいくつか見られます。

〔モーターサイクリスト(日)〕ヤマハスポーツ650XS1Ⅱ試乗の第一印象は、とにかく扱いやすいということである。国内の他の重量車と比べると、はるかに軽快なフィーリングをもっている。エンジンは低速からフラットなトルクをもっており、安定した走行がつけられる。ライディングポジションは文句なしに良く、ピットリとしたライディングフォームがとれる。ストリート用のモデルとして、すべての面で80パーセント以上満足できる車といえよう。

・ヤマハスポーツ350RXⅡコーナリングは最も良い部類にはいるであろう。TR2の流れをくむダブルクレードルフレームはピタッと安定してコーナを回る。始動性は極めて良く、始動後の立ち上りもスムーズで、キャブレターのセッティングの良さを物語っている。速さの点ではこのクラス最高であり、スタイルに関しても一歩進んだものとの感じが強い。ヤマハスポーツ250DXⅡRXの流麗なスタイルとカラーリングをそのまま受けつぎさらに扱いやすいフィーリングを加えたモーターサイクルといえる。

ヤマハトレール250DT1ⅡDT1は強烈な個性をもった車といえる。エンジン回転は良

好なレスポンスをもっており、三千回転附近からの加速はすばらしいものであった。シリンダーに5ポートを採用することによってトルク曲線はなだらかで、低速から高速までの幅広いパワーバンドをもつマシンになっている。

ヤマハスポーツ180CS2EⅡ経済的で安全な長距離ツーリング用モーターサイクルといえることができる。

ヤマハスポーツ125AS2Ⅱ高回転でのスポーツ走行ばかりでなく、低回転での使用にも十分耐えうるものであり、屈曲の多い峠道でも走りやすいフィーリングをもつ車といえる。

ヤマハトレール125AT1Ⅱエンジン回転は無負荷でレッドゾーンを軽く越えてしまうほど吹き上りは良い。ジャンプ走行などでも非常に安定しており、フォークもボトムすることはない。一般走行でも直進性が強く、安定した車という感じが強い。

ヤマハスポーツ90HS1Ⅱ試乗しての第一印象は、HS1のエンジンが思ったより力強いものであるということだ。ローの減速比が他の90ccモデルと比べると低いこともあるがダッシュの素早さはこれでも90ccかと疑いたくなるほどである。90ccスポーツ車としてはベストの部にランクできるマシンであり、初心者にも非常に扱いやすい車といえよう。ヤマハトレール90HT1Ⅱ走りだすとすぐに、ねばりのある柔らかいエンジンという感じをうける。ラフロードでの不用意なアクセル操作も転倒につながるほどのスリップはおこさない。よほど大きな凸凹でも連続しない限り、ラフロードで60km/hを保つのは楽である。

ヤマハスポーツ50FS1Ⅱ近距離のツーリングを楽しむにはムードもあり楽しい車だと

いえよう。

ヤマハミニFT50Ⅱ小粒ながら、ハードな走行が可能なモデルである。トレールシリーズの流れをくむだけにモトクロスコースでの走行でも意外に良く走る。何度かジャンプも試みたが、まず不安は感じられない。ライディングポジションについては、ほぼ満足のゆくものである。本格的なトレールライディングにはちよつぱり無理ながら、レジャーバイクにはもってこいだ。(十一月号)

第二次道交法改正

の試案発表

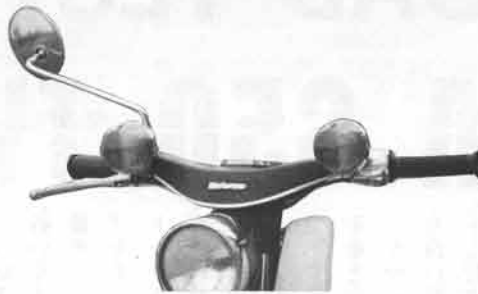
★道交法はさる八月に一部が改正されましたが、このほど第二次の改正試案が警察庁から発表されました。ここにその要約をお伝えしましょう。

〔二輪車新聞〕警察庁は二十四日、道路交通法の第二次改正試案を発表した。前回の改正が飲酒運転の罰則の強化など従来の制度の改善にウェットが置かれていたのに対し、今回は①「歩行者天国」の交通規正に法的裏付けを行なう②自動車公害防止、交通混雑解消のための乗り入れ規制を規定する③ドライバー教育体制の確立④交通ルールをきめ細かく規定すると同時に条文を整備する⑤イギリスのハイウェイコードに似た「交通安全読本」を作成するなど国民の日常生活に密着した法改正になっている。

警察庁は前回の改正と同様、各界の意見を聞いたうえで、成案の作成を急ぎ、できれば公害対策の部分だけを十二月の通常国会前に開かれる臨時国会へ、他は通常国会に上程する方針で、わが国の交通史の一つのエポックを画するものとして注目される。

■ヤマハサービスコーナー■

セールスの方、サービスの方、そして事務の方、お店のみなさんで
ご覧ください。お客さまを迎えたときの“話のタネ”に絶好です。



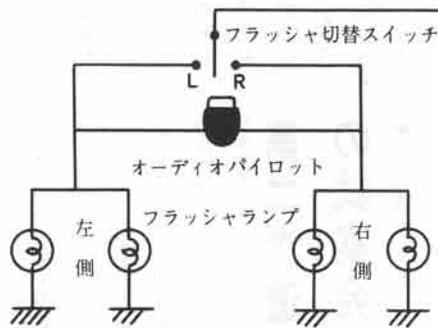
オーディオパイロット

◆ その働き

メイトのハイデラックスやビジネスモデルで使われているフラッシャーにはオーディオパイロットといって、フラッシャーを作動させるとカチカチという打音を発して、運転者にフラッシャーランプが点滅していることを知らせる便利な装置がついています。

それでは、このオーディオパイロットはどのような仕組みで働くのでしょうか。ご説明しましょう。

まず、メインスイッチをONにしてフラッシャー切替スイッチを左に入れます。これで電流の回路がつくられ、フラッシャーリレーはON、OFFの繰返し作動をはじめます。つまり左側のフラッシャーランプの点滅作動がはじまるのですが、それと同時に電流はオーディオパイロットにも流れ、フラッシャーリレーの作動と同調して働きます。

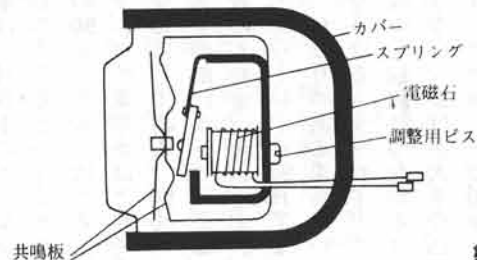


第1図

第1図でお分かりいただけるように、オーディオパイロットは左右のフラッシャーランプに対して並列におかれています。オーディオパイロットの内部抵抗が大きいので左から右のフラッシャーランプへ電流が流れるということはありません。

◆ すぐれた耐久性

オーディオパイロットの内部は第2図のようになっています。フラッシャーリレーがONの場合に電磁石が働き、前面の板をひきつけます。またフラッシャーリレーがOFFになるとスプリングの反動で共鳴板を打ちます。その打音がフラッシャーリレーのON、OFFの繰返しにより持続されます。



第2図

このオーディオパイロットの音質は、すでにご承知のように、ブザーのような連続音でなく、カチカチという打音で、とかく騒音の

多い市街地走行でも十分にパイロットでき、しかもあまり大きくない程度の音量におさえられています。

オーディオパイロットについての寿命はまず心配する必要がありません。というのも、

ふつうのブザーのように接点の断続回数（サイクル）が高くないからです。

なお、オーディオパイロットのゴムカバーを外しますと、本体の裏側に調整用ビスがあり、音が出なくなったようなときにはこの調整ビスの締め戻して調整します。



海を走ろう

'71ヤマハ新艇—発売!!

水に遊ぼう



海原を航くサロン—STR-20HT-CR

	TRI-12SDX	STR-20HT-CR
全長(m)	3.69	5.99
全巾(″)	1.52	2.44
深さ(″)	0.55	1.21
重量(kg)	140	950
定員(名)	2	5
推奨馬力(PS)	10-15	155-170

マイボート時代を迎えて、大きく躍進する水のヤマハに、さらに有力な商品が加わりました。海の男から絶大な信頼を得て人気抜群のストライプ20シリーズにハードトップ艇(STR-20HT)およびハードトップクルーザー(STR-20HT-CR)の登場です。また水のレジャーでナンバーワンの活躍ぶりが話題の

トリマラン12シリーズに、新たにスポーツテラックス(TRI-12SD)が加わりました。

これで'71ヤマハボートはローボートからオーシャンクルーザーまで、大好評のセールボートを含めて14シリーズ23艇が勢ぞろい。あらゆるお客さまのご要望に応じて、来る'71年もまたヤマハは大きく躍進をつづけます。

自然が白一色につつまれて……

ヤマハスノーモビルが大活躍!!



雪国の交通に機動力を持込んですでに3シーズン。お馴染みのヤマハスノーモビルに新登場。産業に、レジャーに、あらゆる分野でひっぱりダコの大人気です。

雪国の暮らしを行動的なものに変えたヤマハスノーモビル。実用に、レジャーに気軽に乗りだそう。

●仕様諸元表(S-300・S-350B・SL-292)

項目	ヤマハ S-300	ヤマハ S-350B	ヤマハ SL-292
全長	2,500mm	2,470mm	2,300mm
全幅	720mm	740mm	720mm
全高	1,080mm	1,120mm	910mm
重量	145kg	185kg	160kg
燃料消費率	4.5km / (1.000l/h)	5.5km / (1.000l/h)	5.0km / (1.000l/h)
エンジン型式	2サイクル、5バルブ	2サイクル、5バルブ	2サイクル、3バルブ
冷却方式	強制空冷	強制空冷	強制空冷
点火方式	キャブレター	キャブレター	キャブレター
最高出力	18PS (1,300rpm)	20PS (1,800rpm)	20PS (1,800rpm)
最高速度	約 40km/h	約 45km/h	約 40km/h
最高回転数	約 3,000rpm	約 3,600rpm	約 3,000rpm
燃料タンク容量	13.5ℓ	10.5ℓ	12ℓ
エンジン型式	ヤマハ 2気筒 5バルブ 強制空冷	ヤマハ 2気筒 5バルブ 強制空冷	ヤマハ 2気筒 3バルブ 強制空冷
冷却方式	強制空冷	強制空冷	強制空冷
点火方式	キャブレター	キャブレター	キャブレター
最高出力	12V 35W	12V 35W	12V 35W
最高速度	約 40km/h	約 45km/h	約 40km/h
最高回転数	約 3,000rpm	約 3,600rpm	約 3,000rpm
燃料タンク容量	13.5ℓ	10.5ℓ	12ℓ
エンジン型式	ヤマハ 2気筒 5バルブ 強制空冷	ヤマハ 2気筒 5バルブ 強制空冷	ヤマハ 2気筒 3バルブ 強制空冷

(注) 性能条件・新雪固め路面の場合 新雪走行性能 雪質により異なります。歩行時に雪面がヒケまでならば走行不可

軽量、小型で、敏しょうに走る。シングルエンジンで経済性もピカ一

S-300



定評あるハイパワーのツイン・エンジン。トラクタ巾も広くけん引力は強力

S-350B



S-300も一段と高性能化した海外仕様モデル。運動性はまさに抜群!

SL-292

